

広島城パネル展 ～絵葉書や絵図からみる広島城の移り変わり～

主催・会場：広島市公文書館 会期：令和3年6月21日(月)～10月1日(金)

No.	タイトル	内容等
1	軍事施設が密集する広島城付近【写真】	広島城付近を上空から撮影した航空写真。広島城内に軍関係施設が密集している様子が分かる。昭和2(1927)年撮影
2	広島城下町絵図 (『図説広島市史』付図)	正徳年間から享保初頭(1711～1720)頃までの城下の様子を記した絵図。城内を中心に侍屋敷は白、町人町は黒、寺院は赤で記されている。原本広島城所蔵
3・4	「芸藩広島城下之要図」より 西の丸付近、城内	「芸藩広島城下之要図」 城下を8つの区画に分けて描いた詳細な絵図。藩士の屋敷には貼紙で氏名が記されている。原本は折本仕立て。明治初期  【西の丸付近】 本川と外堀に挟まれた西の丸付近の絵図。普作御役所の木蔵や御召雁木(おめしがんぎ)が書き込まれている。  【城内】 内堀に囲まれた本丸・二の丸、中堀に囲まれた三の丸・大手郭(くるわ)・北の郭などの城内の絵図
5	広島城外堀(京口門付近)【絵葉書】	外堀の埋立工事は明治42(1909)年6月から開始された。これは埋め立てられる前の八丁堀(京口門付近)の様子を撮影したもの。埋め立てられた堀は、大正元(1912)年に白島線の電車通りになった。電車通りは昭和27(1952)年、現在の位置に移設された。明治期発行
6	広島市街明細地図 明治27年	日清戦争が始まった明治27(1894)年の12月に作成された地図。広島城本丸には「本営」、三の丸には「帝国議会仮議院」など、日清戦争当時の施設名が記されている。明治27年12月発行
7	広島市街明細地図 明治20年(部分)	本丸には(広島)鎮台本営(明治21(1888)年に第五師団に改称)、三の丸には十一連隊営所、大手郭一帯には練兵場、西の丸には輜重(しちょう)兵営所などの施設名が記され、城内はほぼ軍の施設で占められている。明治20年11月発行
8	広島市街業務案内地図 明治38年(部分)	明治37(1904)年の日露戦争開戦直後に作成された地図。本丸には第五師団司令部、三の丸には第十一連隊兵営、大手郭には第九旅団司令部や西練兵場、西の丸には輜重兵営や衛戍(えいじゅ)病院等の施設名が記されている。明治38年6月発行
9	大広島市街都市計画地域別街路細図 昭和5年(部分)	満州事変が始まる前年に発行された地図。本丸には旧大本営や五師団司令部、三の丸には歩兵第十一連隊、大手郭には師団旅団区司令部、西の丸には輜重兵第五大隊、衛戍病院等の軍の施設名が記されている。昭和5(1930)年12月 大日本東京交通社出張所編・発行
10	最新広島市街地図 昭和15年(部分)	戦局が進む昭和15(1940)年に作成された地図。広島城をはじめ東練兵場、被服支廠(ししょう)、糧秣(りょうまつ)支廠、兵器支廠などの軍関係の施設は全て白抜きにされている。昭和15年8月 金正堂書店編・発行
11	天守閣正面【写真】	南小(こ)天守跡から撮影された天守閣南面の写真。第二層から第四層までの突き上げ戸が開けられている様子や、天守閣の入口に改装された南小天守との間の渡槽(渡り廊下)の一部が見える。昭和戦前(昭和11年以降)
12	天守閣第一層南西外観【写真】	天守台から第一層の南西角を撮影した写真。突き上げ戸や鉄砲狭間(ざま)が確認できる。昭和11(1936)年10月4日 渡辺襄撮影
13	天守閣第二層内部【写真】	南側の武者走りを西側から東側に向かって撮影した写真。手斧(ちょうな)で削っただけの湾曲した大きな梁、白壁に設けられた鉄砲狭間や格子窓が確認できる。昭和初期撮影
14	天守閣第三層内部【写真】	東側の武者走りから撮影した内部の写真。第二層から上がる階段と第四層に上がる階段が写っている。昭和初期撮影

No.	タイトル	内容等
15	天守閣第五層内部【写真】	外壁との間に設けられた廻(まわり)縁、廻縁に出る出入口とその両側に設けられた釣鐘型の華頭窓(かとうまど)などが写っている。出入口の外の高欄も確認できる。昭和初期撮影
16	天守閣南東【絵葉書】	本丸から撮影された天守閣南東面の写真。中央には大天守と東小天守の間の渡櫓の一部が写っている。大正期 広島口〇堂発行
17	天守閣西【絵葉書】	天守閣の西面を撮影したもの。右側には天守閣第一層の入口として残された南小天守との間の渡櫓の一部が写っている。第一層の左端には防御のために設けられた開口部(石落とし)が見える。昭和初期 広島口〇堂発行
18	天守閣北東【絵葉書】	天守閣の北東面を撮影したもの。東小天守との間の渡櫓の一部や釣鐘型が特徴的な第五層の華頭窓が確認できる。昭和戦前 広島口〇堂発行
19	中御門【写真】	中御門は本丸南側に位置した門で、二の丸から本丸に入る入口に当たる。これは中御門を二の丸側から撮影したもの。扉や門柱に鉄板が打ち付けられていたことから「鉄(くろがね)御門」と呼ばれていた。昭和11(1936)年10月4日渡辺襄撮影
20	表御門(師団司令部入口)【写真】	二の丸に設けられた表御門(橋御門)を写したもの。正面の門柱には「第五師団司令部」の表札が架けられている。被爆まで残っていた多門櫓(たもんやぐら)や太鼓櫓(たいこやぐら)も写っている。昭和戦前
21	広島大本営跡と天守閣【絵葉書】	広島城本丸下段から上段の広島大本営跡を撮影した絵葉書。上段に向かう緩やかなスロープの両側は植栽で飾られ、左奥には天守閣が写っている。明治～大正期
22	広島大本営跡【絵葉書】	左から天守閣、その下に昭憲(しょうけん)皇太后御座所、右側に旧広島大本営の建物が写っている。大正期 広島口〇堂発行
23	広島大本営跡【絵葉書】	日清戦争時に広島に置かれた広島大本営には、明治10(1925)年に広島鎮台司令部として建てられたこの2階建ての木造洋館が使用された。大正15(1925)年史蹟名勝天然記念物に指定。昭和戦前
24	広島大本営跡【写真】	旧広島大本営の建物は被爆により倒壊したが、土台部分は残った。これは昭和42(1967)年4月に広島市広報課が撮影したもの。天守閣を背景に土台とその横の大正15(1925)年の史蹟名勝天然記念物指定の由来を記した石碑が写っている。
25	旧大本営前の噴水池「桜の池」【絵葉書】	旧広島大本営の建物とその前の噴水池「桜の池」が写っている。この池は、明治31(1898)年、旧城内に広島軍用水道の鉄管を布設するのに伴い築造された。大正14(1925)年に「桜の池」と命名された。昭和戦前
26	整備された広島城跡の池【写真】	広島大本営跡の前にあった桜の池の遺構は、戦後広島城跡の公園の一部として整備された。昭和40(1965)年頃 広島市広報課撮影
27	戦災後の広島城跡(『昭和25年市勢要覧』より)【写真】	昭和26(1951)年6月発行の『市勢要覧』に掲載されたもの。本丸や天守台には建物はなく、焼け残った樹木と石垣だけが写っている。
28	昭和27年頃の広島城跡(『昭和27年市勢要覧』より)【写真】	昭和28(1953)年10月発行の『市勢要覧』に掲載されたもの。水がかれた桜の池の一部や広島大本営跡の土台、天守台の石垣が写っている。
29	復元工事中の広島城天守閣【写真】	広島城天守閣の復元工事は、昭和32(1957)年10月から始められ、翌33年3月に竣工した。この写真は33年2月に撮影されたもの。足場の上部に天守閣第五層の屋根の部分が見える。完成した天守閣は、4月に開催された広島復興大博覧会の第三会場として使用された。
30	復元された広島城天守閣【写真】	昭和33(1958)年に復元された天守閣を三の丸から撮影したもの。本丸南西角の石垣、その上には同31年に再建された護国神社の屋根と千木(ちぎ)が見える。昭和33年8月 広島市広報課撮影

\* 所蔵・提供等の記載のないものは、公文書館所蔵資料です。

\* 絵葉書の発行年については、袋、検閲日または押印されているスタンプ等で特定できるものは、その年を採用しています。

・ 詳細な年次が不明であり、当館が推定したものについては、「明治期」「大正期」等大まかに記しています。

・ 昭和は、昭和20(1945)年8月15日以前を戦前、16日以降を戦後としています。

・ なお、絵葉書は、古い写真を使用して作成したものもあるため、発行時期と撮影時期は必ずしも一致しません。